

市大山岳会ニュース

大阪市立大学山岳会

会長 大橋秀一郎

No. 4

平成3年4月1日発行

編集：総務委員 矢倉 睦

平成2年度総会報告

去る2月4日（日）大阪保養所・大阪クラブにて平成2年度の山岳会総会が催されました。多数のご参加を得、以下のように進行されました。

1. 開会の挨拶
2. 前年度活動報告・・・企画、会計、現役指導、総務委員
3. 会計監査報告・・・高木
4. 平成3年度活動計画・・・上記各委員
5. 中国西藏自治区学術調査報告・・・理学部 依田教授
6. 閉会

平成2年5月～7月にわたって派遣された日中友好学術隊の調査報告は、スライドを用いての興味深いもので、四光峰登山の、ただ黒と白の世界ではなく様々な色が氾濫しており、感慨深いものでした。四川省の深い森林、鮮やかな青いケンなど、自分の目で見てみたいと思わせられます。

2部はいつものように鍋を囲んでの宴会となりましたが、初めて参加して下さるOBの方もいらっしゃり、又、現役1年生も参加しての楽しいものでした。山岳会事務局に届いた今回の総会の出欠の葉書より、欠席された方々の近況を少しお伝え致します。

*白井順三氏・・・先日の山岳会ニュースの三島先輩の思い出話、もっと詳しく山行の記録を再現していただけないでしょうか。雪線の複製ができないようなので、よけいに知りたいのですが…。

*荻野昌宏氏・・・只今島根県他現場を回っており、時間がとれず申し訳ありません。

*堺 皓二氏・・・今回は出席しようと最後まで日程を考えていましたが、やはり一月末は駄目でした。今大変充実した時を過ごしています。

*上田忠士氏・・・北海道の山に毎年登っており、今年も大雪。知床を計画しています。北大のOBが仲間です。誰か来札の時は知らせてください。

(総務委員 矢倉 睦)

山 行 記 録

* * * * * 京都支部
比良雪見山行 中村光伸
* * *

日 程： 1991年2月10日～11日

参加者： 神吉、川勝、藤本、浅部、上堂、中村、久保田、岡本、奥田、
久保田夫人、同友人、皆川、北村

10日 JR大阪(10:00)－(11:30)川勝山荘(13:30)－(16:00)高津小屋

11日 高津小屋(8:40)－(9:50)武奈ヶ岳(10:10)－(11:10)高津小屋(12:30)
－(14:30)リフト前

久保田氏一行は名古屋から車で、他はJRで川勝山荘に集合。川勝氏夫人の御手料理に歓待され、ゆっくりビールをいただいた後、出発。9月の月見山行と同様今回も雨。リフトは待たずに乗れてスキー場へ。例年になく大雪で積雪2m。高津小屋は窓の半分まで雪に埋まっています、除雪に一苦勞。ストーブに赤々と薪をたいてカンビールをあける。

今夜のメニューはやみ鍋。にわとり一羽のガラでスープをとり、各自持参の材料をぶち込む。ビール、スコッチ、ブランデー、日本酒、焼酎となんでもござれ。藤本氏にワープロで打っていただいた、なつかしい歌集を見て、且つ歌い、且つ飲んで、夜の更けるのも忘れて12時まで歓談。夜中の3時ごろ突然轟音とともに屋根の雪が落下。

翌日は7時起床。本日も雨。おいしいコーヒーを飲み、雑炊を腹いっぱい食べて、小屋に残る神吉、藤本、久保田夫人、皆川さんと早朝下山した岡本以外で武奈ヶ岳をめざす。

イブルキノコバからのルートを行くが、右手の尾根へ夏道からそれた踏跡をた

どる。武奈の頂上はあまり風もなくあたたかい方。下りは高津小屋を目指して直行ルートをとる。視界がきかず、中村が北よりに方向を間違えるも、奥田氏が上手なルートファインディングでパーティをリード。川勝、浅部、中村、奥田は昔なつかしいワカンをはき、春山の気分を味わって高津小屋に帰る。

昼食はパンと、神吉さんが沢山持ってこられたモチで腹ごしらえ。久保田氏は一足先にスキーにゆく。帰路、広谷の丸木橋で、神吉さんの荷物を持ったせいか奥田氏落ちる。数人は橋を避けて飛び石を渡る。ロープウェイの駅は時間が早かったせいで乗客少なく、スムーズに下山。

★ 山と溪谷社 七〇〇円 ★

★ 岡 秀郎氏（昭56年商卒）が、山岳部入部から四光峰登頂までを一冊の本として山と溪谷社から出版されました。以下に1991年3月24日付朝日新聞掲載の案内を紹介します。

立山からチベットへ

岡 秀郎 著

都会育ちの少年がテレビでヒマラヤ登頂の光景を見て心を動かされ、大学入学と同時に山岳部へ。初合宿で残雪の立山、剣岳に登り一点の曇りもない大自然と初めて向き合う。夢をヒマラヤに広げ留年してネパールへ。特派員として日中合同登山隊に参加、中国・四光峰の初登頂に成功する。人生の師と仰ぐ大自然の奥深さ、温かさを人工の自然しか知らない若い世代に伝えなかったと著者はいう。

（山と溪谷社・一、七〇〇円）

★ 来る5月には市大恒例のボート祭が大川で開催されますが、今年はボート祭開催100周年にあたり、市大山岳会でも参加を検討しています。腕に覚えのある方は山岳会事務局まで御一報下さい。

銅板碑の人々 (後編)

三島義彦

森本嘉一 大市大 旧制北野中学期より山に入り、技術的にも体力的にもまた山の研究にも強く、ヒマラヤを夢みながら戦場で亡くなった先輩、仲間の遺志を果たすべく遠征隊を組織する。昭36.5.11 隊長として登山中、リルン氷河で雪崩に襲われ遭難。シベリア抑留で苦勞を重ね、帰国後は山、山岳界に打ち込み、市大山岳部の再建に尽力し、又、日本山岳会関西支部の委員にもなり、大きな足跡を残す。

前田光雄 大薬専 昭46.11.5 ネパール、ランタン、キャンジンゴンパで逝去。記憶力強く、几帳面、生真面目な方。昭19年3月第2回登山研究会研究隊隊長(陸軍戸山学校)、11月穂高で戦技登山研究会(陸軍省)に藤木九三氏、新村正一氏等と参加。昭22年2月関西登高会創立に参加。3月剣早月尾根から槍ヶ雪洞による縦走。香峰院光誉浄興居士。

宮本義忠 大薬専 昭21.12.18逝去。

眞辺政一 大薬専 昭59.12.逝去。

西岡一雄 好日山荘 昭39.2.6逝去。自然を愛し、山を愛し、好日山荘をルームにして出入りする学生達を暖かく見守り、日本の登山の発達と共に用具の発展に力を尽くされ、山と道具の師匠として尊敬される。エビノ高原に宮崎県在住の登山仲間と登り、避寒先に帰宅して2日後、夕食後眠ったまま逝去。淋しくても静かに好める旅において死を望む。願わくは閑室にそよ吹く風を心ともなく聴きいり、人の知らぬ間にうつらうつらと死んでいけば…と、我旅に死なんと宣言されていた。妙法 山岳院清峻日雄居士

野白栄一 大薬専 昭19.4.27 フィリピン、マニラで戦病死。薬専でも卒から抜け出し、一匹狼的であり、烈しい登行を続けられた。

☆西浜覚三 大市大

☆西村正己 大市大

西島宏一 大市大 昭13.9.18 中支端昌方面仏堂山付近で戦死。住吉中学卒。昭9年から昭12年、剣合宿、台湾の山、穂高、唐松、五竜、乗鞍、大和鈴鹿の山行に参加。部の発展に力を尽くされる。

小川英一 大市大 昭61.6 逝去。オッチャンの愛称で尊敬される。近代登山へ進む新しき山岳部への行き方の理解者であり、応援者であった。戦後八ヶ岳へ合同合宿登山をした時、乾板使用の写真機を持ってこられ、ガッシャと音をた

てて撮られていた事を思い出す。

☆大橋秀一郎 大市大

小倉 積 関西学院 戦死。昭18卒業。戦死された場所、年月日判らず。昭16年毛勝猫又縦走合同登山のサブリーダー。

佐藤耕三 大薬専 昭64.4.11 逝去。大薬専から、山へ行く為と徴兵猶予を願って日大へ。坊の主と自称し日大ではインさん（印）と呼ばれる。市大山岳会会友。福田源五郎氏遭難の時も日大北尾根アクシデントの時も同行。多く友人を山で、病で亡くし、その菩提を弔い正信偈を唱え、般若心経を唱える有徳の人。ランタンの時はJACの委員金坂一郎氏、松田雄一氏等への紹介を始め多くの力ぞえをいただく。昭46年前田光男氏がランタンで亡くなられた時は、遺骨受領にカトマンズに行く。よく世話をし、助けられたので宮原巍氏ほか彼の応援を受けた人多しと聞く。アルコールonlyのアルコール好き。逸話多い。昭63年6月既に自覚されていた身体の不調をおして銅板碑に参られたのが最後となる。昭15年北尾根で遭難された友の50回忌をまつり責を果たしたいと言って準備されていたのに、遂に体力の衰えから9月のお祭りに参列できなかったことは心残りだったろう。この碑は慶応パノラマルート入口近くにあり、彼の筆になる。深信院釈耕道。

戸塚暢之 大市大 昭19.2.19 ラバウル沖で戦死。岩登りはアクロバットの上手だった。天真爛漫な性格と相まって人気を集められた。「ちょっと行ってくるわ」とまるでハイキングにでも行くような言葉を残して新京から転進し、戦死される。

塚本謙一 大薬専 昭31.1.17 逝去。

塚本新次郎 大薬専 昭63.9.29 逝去。

和田 保 同志社 昭18年頃フィリピン、レイテで戦死。

八幡文治郎 大薬専 戦死。場所、年月日不明。

山本健吉 大市大 昭18.12.18ラバウルで戦死。常に熱心な山の愛好者であり実践者。縁の下の力持ちの仕事を忠実に実行された。ゴツイ脚で荷物を背負ったら誰にも負けないねばりのファイトマン。地下足袋にわらじの沢歩きが得意。いい山の人だった。

☆新佐義定 大薬専

☆中村正雄 大市大

☆中島喜一 大市大

遠忌

平成2年 西岡氏27回忌。

平成3年 栗飯原氏7回忌。佐藤氏3回忌。

平成4年 和田氏、山本氏50回忌。小川氏7回忌。

平成5年 北條氏、片山氏、戸塚氏、野口氏50回忌。森本氏33回忌。
松村氏7回忌。

平成6年 林氏、入江氏、北村氏、刀原氏、川本氏50回忌

比良高津山荘利用規定

- ◎ **利用者**・・・OCUAC所属の会員及び会友
(家族及び知人、友人については同行を原則とする。)

- ◎ **予約**・・・利用を希望される方は、まずお電話ください。
 - ☎山岳会事務局・・・06-365-8866
 - ☎岡本 恒夫・・・06-385-6307
 - ☎西村 正男・・・0729-88-0863
 - 京都支部 ☎中村 光伸・・・075-922-8232
 - 名古屋支部 ☎久保田淳三・・・052-721-6789小屋の鍵を郵送します。

- ◎ **利用料金**・・・原則として徴収致しません。
但し、年間の小屋利用者全員に対し、毎年11月に
賛助金を1口1万円として募ります。

- ◎ **管理**・・・利用された会員または会友の方は、使用前と同等
以上の美化、整理、整頓、清掃、管理を徹底して
下さい。

※市大山岳会ニュースNo.2（平成2年7月1日発行）に掲載
されています山小屋利用料金は取消させていただきます。

（西村正男）

大阪市立大学山岳会
平成2年度収支決算報告書
(平成2年1月1日~平成2年12月31日)

会計委員 藤本 勇
西村正男
福山昇二

(単位 円)

収入の部

項 目	金 額	備 考
前 期 繰 越 金	660,251	
通 常 年 会 費	678,000	
臨 時 会 費	200,000	通常総会出席者
報 告 書 販 売 収 入	142,000	四光峰報告書
銀 行 利 息	10,507	
合 計	1,690,758	

支出の部

項 目	金 額	備 考
通 常 総 会 費	255,107	
山岳部強化援助費	536,340	部室改造費、パンフレット作成
報 告 書 郵 送 費	51,296	
関 係 団 体 負 担 金	49,000	
通 信 及 び 事 務 費	37,262	
慶 弔 費	18,150	
山 岳 会 基 金	146,847	
次 期 繰 越 金	596,756	
合 計	1,690,758	